Creative Enzymes®

ネイティブアバロン硫酸エステラーゼ

Cat. No. NATE-0685

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明	硫酸エステラーゼ EC 3.1.6.1 は、硫酸エステルの加水分解を触媒するエステラーゼクラスの酵素です。これらは、ステロイド、炭水化物、タンパク質など、さまざまな基質上に存在する可能性があります。硫酸エステルは、さまざまなアルコールやアミンから形成されることがあります。後者の場合、得られたN-硫酸塩はスルファメートとも呼ばれることがあります。硫酸エステラーゼは、環境における硫黄の循環、リソソーム内の硫酸化グリコサミノグリカンおよびグリコリピッドの分解、細胞外空間における硫酸化グリコサミノグリカンの再構築において重要な役割を果たします。硫酸転移酵素とともに、硫酸エステラーゼは硫酸エステルの合成と分解のための主要な触媒機構を形成します。
用途	アワビの内臓からの硫酸エステラーゼは、ヒトp-セレクチン糖タンパク質リガンド-1がPSGL-1アミノ末端の硫酸化チロシンを介して皮膚関連ケモカインCCL27と相互作用することを明らかにする研究に使用されました。また、アワビの内臓からの硫酸エステラーゼは、ハムスター胚線維芽細胞からの硫酸塩およびグルタチオン複合体のHPLCを調□する研究にも使用されました。
別名	EC 3.1.6.1; 9016-17-5; サルファターゼ; ニトロカテコールサルファターゼ; フェノールサルファターゼ; フェニルサルファターゼ; p-ニトロフェニルサルファターゼ; アリールスルホヒドロラーゼ; 4-メチルウンベルフェリルサルファターゼ; エストロゲンサルファターゼ; アリールサルファターゼ

製品情報

種	アワビ
由来	アワビの内臓
形態	凍結乾燥粉末
EC番号	EC 3.1.6.1
CAS登□番号	9016-17-5
活性	20-40 ユニット/mg 固体
単位定義	1ユニットは、pH 5.0、37°Cで1時間あたり1.0μmoleのp-ニトロカテコール硫酸塩を加水分解します（30分のアッセイ）。

保管・発送情報

保存方法	−20°C